

地方通信



關東地方

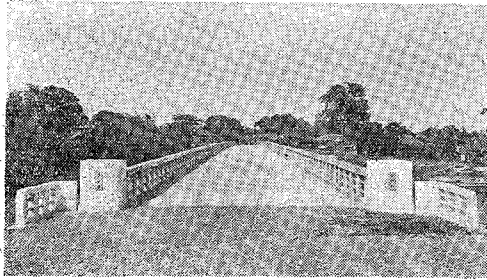
茨城縣萬代橋並鬼怒川橋の竣工

茨城縣指定府縣道水戸會津線の萬代橋並古河下妻線の鬼怒川橋は何れも工事中の處過日竣工した、其工事概要左の如し。

萬代橋工事概要

- 一、指定府縣道 水戸 會津 線
 右岸 水戸市根本町
 左岸 那珂郡柳河村青嶺 地内那珂川筋

地方通信

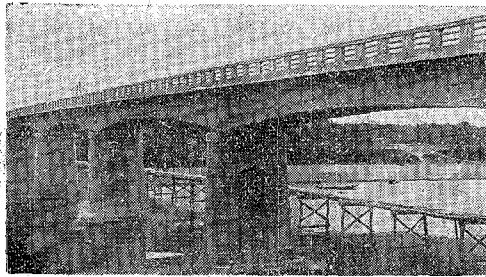


- 二、橋長 一、八〇〇米 有効幅員六〇米
 - 側徑間長 二一、五〇米 二徑間
 - 中央徑間長 二七、二〇米 五徑間
 - 三、取付道路 三〇〇米
 - 内〔右岸 一五〇〇米 有効幅員七五米
 〔左岸 一五〇〇米 有効幅員七五米
 - 四、橋臺 鐵筋混凝土造 二基
 - 五、橋臺 井筒基礎を有する鐵筋混凝土
 (長十米) 六基
 - 六、橋面 混凝土鋪裝 (配合一、一五、三)
 - 七、混凝土總量 二五、二〇〇粒
 セメント 一六、六八一袋
 - 八、鐵筋總量 八一噸
 - 九、事業費 一七一、七二〇圓
 - 延人員 三〇、八〇四人
 - 一〇、着手月日 昭和十一年十二月二十日
 - 一一、竣工月日 昭和十五年五月三十日
- 本橋は當初橋長一八〇米有効幅員七五〇米の鋼板桁橋の計畫なりしも、起工直後鐵材は急騰し、更に使用制限を受けて鋼板桁材は到底購入し得ざる状態となりたるを以て、突桁式鐵筋混凝土了桁橋に變更し、幅

員を六〇米に縮小せり。

工事中昭和十三年六月、八月及九月並に

昭和十四年八月の大洪水に遭遭せり。



二、橋長 二、三二〇米

内 一、六〇米 突桁式鐵筋混
 七〇米 木造橋 幅員 三〇米

三、取付道路 延長

内 四、六〇米 右岸 取付道路 有効 六〇米
 三、八〇米 左岸 取付道路 幅員 六〇米

四、橋臺

1 鐵筋混泥土造 壹基

2 木造柵造 壹基

五、橋脚

1 杭打基礎を有する鐵筋混泥土造 壹脚

2 井筒基礎を有する鐵筋混泥土造 五脚

内 長 二五〇米 壹脚
 長 一五〇米 四脚

六、橋面 1 混泥土鋪裝 (一、一五三)

2 三和土

七、混泥土總量 1 一七、〇〇〇粒

2 セメント 一二、九九一袋

八、鐵筋總〇 一三〇噸

九、事業費 一五四、二八〇圓

延人員 三〇八、七八〇人

一〇、工事着手 自昭和十二年三月十八日
竣工 至昭和十五年五月三十日

本橋は當初橋長二四〇米、有効幅員六〇米の突桁式鐵筋混泥土丁桁橋の計畫なりしも、起工直後鐵材は高騰し、更に使用制限を受けて鐵材購入不能に陥りたるを以て、種々橋梁の構造を研究し、治水上支障なき程度の構造として低水敷は原計畫通り重閣長二八米の鐵筋混泥土橋とし、高水敷は工費の關係上假設構造の木橋とせり、工事中昭和十三年六月及九月並に昭和十四年八月の大洪水に遭遇せり。尙ほ本橋の支承は鐵筋混泥土ロツカーを用ひたり。

茨城縣下多賀町の街路網決定す

茨城縣多賀郡多賀町に於ては愈々都市計畫道路網を決定した。即ち同町は日製工場

鬼怒川橋工事概要

一、指定府縣道 古河線
 下妻線

右 結城郡西豐田村今里 地内鬼怒川筋
左 眞壁郡下妻町長塚

の建設によつて、一躍工業都市として活況を呈するに至つたが、明十六年度工場完成の曉は人口十萬餘の都市實現を豫想されるので、その膨脹に先立ち多賀郡を起點として縦横に幹線道路を敷き外廓には環狀線を繞らし、更に幹線と環狀線を數線の放射線によつて繋ぎ、驛と工場及び都心と住宅地基とを相互連絡新興都市構成を企畫されたもので、道路數は二十六線總延長四十キロで土地區畫整理事業、その他により逐次實現を圖らんとするもので、工事費見積額は六百十三萬餘圓に上る。尙事業實施主體は日製の寄附に待ち、縣の直營事業とする方針である。

又其道路網は多賀驛を中心として驛の西側に約六千二百平方メートル（一千八百七十坪）東側に約三千五百平方メートル（一千五百坪）の廣場を設け、此處を取り圍んで幅八米から二十四米、總延長四千キロの二十六本の路線が環狀の巢のやうに次の如く張られてゐる。

◇大幹線 西側驛前廣場を起點として、西方へ長さ六百メートル幅二十四メートルの線を敷き、その終端に四千六百平方メートル（一千三百五十坪）の中央廣場を設置し六百メートル線に直交して國道に並行して長さ一千二百メートル、幅十六メートル乃至三十四メートルの線を敷き、これと國道の中間に長さ一千メートル、幅十六メートル乃至十八メートルの線を敷いて二本で南北を縦貫、二線を大久保、關口で分岐し河原子に至る長さ二千メートル、幅七メートル乃至十二メートルの街路を以て東へ横斷、常磐線で兩分されてゐる。東西兩地域を連絡この南北二線と東西一線を三大主要幹線とした。

◇環狀線 市街地域の外廓をぐるつと幅十二メートルで五千メートル取り巻いてゐる起點は、多賀郡坂上村地内縣道水木會瀨線で常磐線を横切り、金澤を経て山の麓に沿ひ南に向ひ諏訪に至り、此處で放射線に接続してゐる。

◇西側地域各線 驛前大通りと南北縦貫二主要線及び環狀線を重用して、縦横に幅十二米乃至二十一米の數線を敷き、幹線を適宜に連絡する幅八米乃至十六米の放射線敷線を敷いてゐる。又西側驛前廣場を起點として、北方に長さ九百米幅十五米のものとして、南方に長さ一千米幅十二米のものを設け、驛と工場並に住宅街たるべき地域との連絡を計つてゐる。

北陸地方

石川縣々道に第四高等學生勤勞の鐵

石川縣金澤市在第四高等學校では、同市傳燈寺山に修練道場を設置して、植林と開墾に勤勞の鐵をとりつゝ心身鍊磨を行ふ計畫を立てたが、來る夏季休暇に傳燈寺町地内の縣道より道場へ通ずる道路の建設に着手することとなり、八月下旬より九月月上旬

にかけ、約十日間にわたつて勤勞作業を行ふに決し、候補地下檢分のため、先般栗原、大河、翠川各生主事徒、國友市土木課長、同課技師一行が視察することになつて

る。八月は勤勞作業として、第一期事業の道路建設を完了する豫定で、九月以後第二期事業として杉、ヒバ等の植林をなし、第三期事業として修練道場建設に着手するはずである。

石川縣下白山表參道の青

年團勤勞奉仕による復舊

昭和九年の大洪水から、白山頂上白峰比咩神社奥の院に達する表參道（舊道）は修理も加へられず、荒廢のまま放置されてゐるが、先般白山比咩神社片岡宮司が、白麓白峰村に赴いて白山振興策について協議した結果、いよ／＼白峰村青年團員百二十名が、七月十七日早朝白峰小學校で勢揃ひのうえ、市ノ瀬にいたり勤勞奉仕として、舊登山道の大修理をなし同夜は室堂に一泊、

同十八日の開山記念祭に列し、國威宣揚の祈願を行ふた。

近畿地方

奈良縣下伯母ヶ峯隧道

完成す

奈良縣下東熊野街道上市、木之本線の大難所縣道伯母ヶ峯のトンネル工事は、十三年七月起工以來二ヶ年を経て遂に完成、同地は標高一千米、國立公園伯母ヶ峯の景勝地、冬季積雪のために交通社絶が名物となつてゐた難所で、トンネルの延長一五〇米高き五米、有效幅五米で、その他川上側で八〇〇米、北山側で五〇〇米、幅六・五米の道路工事も完成した。

中國地方

島根縣松江市の明粧

計畫さる

島根縣下松江市の都市街路網は年とともに整備し名實ともに山陰第一都市としての誇りを保つてゐるが、市ではさらに一流都市として遜色なきまでの街路網を整へるため、十六年度早々からつぎのやうな都市計畫路線の工事に着手、大松江市の道路網を確立することになつた。しかしてこれが計畫にあつては幾多の事情を考慮に入れ、第一期と第二期計畫に分ちその實現に慎重を期する一方、この際突道湖の淡水化をももくろみその方法として、新大橋と大橋との中間の大橋川に大ダムを構築すべく、まづ一般の輿論を喚起、これが實現のため一路邁進の壯をきめてゐる。第一期都市計畫線として十六年度早々から着手するものは相生町道路の擴張と津田街道の延長として幸町入口にいたる道路の擴張で、これにより玉造街道と聯絡、これが完成後において

は、それ二期計畫として松江驛の裏側から大正町を突き抜け、天神川を渡つて、さらに南に延び、新雜賀町の中央を通り、津田街道に接続する新道路を敷設する計畫で、

この結果松江驛の裏支關ができ上り、玉造方面のお客輸送にも大利便を來すことになる。つぎに橋北において第一期計畫のうちに見做されてゐる路線では、加賀街道から市營住宅附近を貫いて奥谷町の入口附近に聯絡しようとする線があり、この路線は將來北堀橋の西側に設けられてゐる假橋と眞直に結びつけようとのはらである。

以上の都市計畫線完成により松江の裏支關ができ、さらに加賀街道による惠曇港を一方の海の支關とし、陸海兩支關を完全に握手させ、大松江市の發展飛躍を期さうとするにある。

なほこのほか新大橋から眞直に進んで、商工學校附近を通り、石橋町道路に結ぶ線と商工會議所の左角から堀川に沿つて西側に進み、交融橋に聯絡せんとする線も、計

畫豫定線となつてゐるが、幾多の障得が横たはつてゐるので、その實現をみるのはほど遠いことだらう。

四國地方

徳島縣下國道

改修促進の急務

徳島縣下國道二十一號線の改修促進は、縣廳前架橋工事の竣工に關連して、徳島縣を南北に貫く生活線であるためこれが工事の遂行促進は、關係市町村の等しく要望するところであるが、工藤期成同盟會長は速かに目的の達成を期するため、六月廿日午前九時から縣議事堂で、國道二十一號線改修期成同盟會總會を開き、促進方要望運動開始について協議することになつた。

青田廣ろく

風は東に

又西に

巴

高知縣下自動車循環道路の出現

高知縣と四國中央電氣會社と交渉中であつた、吉野川二流大橋堰堤構築に伴ふ地元町村への土木補償契約は、此程二十萬三千圓と決定したので、高知縣では嶺北交通施設擴充のため、道路橋梁の改修新設を計畫中の所、日正式決定を見たので、愈々着工昭和十七年三月までに完成せしめる事となつた。即ち工事區間は土佐郡大川村船戸より長岡郡大杉村國道まで、二十三キロにわたる縣道路を、全部幅員三米六十以上となし、その間待避所、曲部の是正、橋梁等の改良をなし、早明浦橋の完成せんことを期することとなつた。